

京都市中小企業未来力会議ビジネスアイデア協力依頼（29. 10. 13日現在）

アイデア②	働き方改革
発案者	日栄無線株式会社 志磨弘道
アイデアの概要	
京都市に事業所のある企業で、月に数日、時短勤務を取り入れ可能な企業には京都市が認証（ある一定の条件を設定）を行い、認証を受けた企業は働き方改革に取り組んでいる企業として認知が広められ、若者が安心して働ける職場の選択肢として提供する。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・（弊社では）離職率が高く、特に出産、子育ての女性が持続して就業が困難な状況が続いた。そこで、全社員対象に時短制度の実施を行い好結果を得たので、その知見を共有し、取り組みをさらに進めていきたい。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
京都市、京都府、求人企業、ハローワーク、企業と学生をマッチングさせる機関、大学。	

アイデア③	京都の観光おもてなしプラットフォーム構築
発案者	京なか GOZAN 代表 桂田 佳代子
アイデアの概要	
京都・観光関連アプリ・サービスの共通基盤を作成し、それぞれのアプリが簡単にオープンデータなどを活用できるようにする。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人が訪れる観光地は、清水寺、金閣寺、伏見稲荷大社などに集中し、また、桜と紅葉の時期に旅行客数が急増がするなど、観光の分散化が課題となっている。 ・一方で、京都に到着後の情報源は、旅行ガイドブックが最も多く、訪日外国人が滞在中に現地のリアル情報をタイムリーに入手できていない状況がある。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・京都関連のアプリを提供している方やご検討中の方に、「こういった情報オープンデータがあればよいか、こういった形で利用できたらよいか」のアイデア出しについて、協力してほしい。 ・アプリでの「京都のおもてなしプラットフォーム」として連携したい。 	

アイデア④	出版メディアで、まちおこし！本屋を活かして活性化にチャレンジ作戦（仮）
発案者	京都府書店商業組合
アイデアの概要	
活性化に取り組みたい地域・商店街とお近くの書店を結び、出版コンテンツを利用できるよう著作権者との交渉や作家・作家のサイン会などの開催をお手伝いしていきたい。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> 書店組合の組合員の減少について、地域・商店街の地盤沈下を原因のひとつとして考えられる。そこで逆転の発想で「書店を中心に地域を活性化することができないか」をテーマに、出版メディアが持つ多彩なコンテンツを活かして、対象となる地域の特性にスポットライトを当てるような活動を目指す。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
<ul style="list-style-type: none"> 商店街の偉人・物語に関する情報。 人を集めてまわりに宣伝したくなるような、今流行の「インスタ映え」するような物（人？）、もしくは従来通りの報道機関によるメディア露出による成果の報告をさせてくれる場。 	

アイデア⑤	第2新卒者等の求職者と中小企業とのマッチングサイトの構築	※10月10日追加
発案者	シスポーツ株式会社 米田 明・京都商工会議所青年部会長 竹村 一鷹	
アイデアの概要		
<p>就職後数年で辞めた若者と、若い人材を欲しがっている中小企業との『出会いの場』の創出</p> <p>第2新卒者を主なターゲットとして、就職後数年で退職した人が次の就職先を探すとき、必ず見に来るサイト（仮称 ウェルカム第2新卒サイト）を作る。そのサイトは、大学をはじめ高等学校においても学生に周知（もしも就職後数年で辞めるようなことがあった場合、次の就職先を探すときには必ずこのサイトを見るように周知）されるような仕組みを構築する。</p>		
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識		
<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省の調べによると、新卒で就職した人が3年以内に退職する割合は、中小企業で3割から5割、大企業でも2割から3割に達しているが、その退職者の、次に就職先などについて、よく分かっておらず、多くが非正規雇用者として働いているのではないかと考えた。 一方で、中小企業においては人材不足の状況が続いており、新卒者も大学等が大手企業への就職を優先するあまりなかなか採用できないでいる。 		
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと		
<ul style="list-style-type: none"> 行政…信頼できるサイトであるということを認知されることが必要。 WEBサイト制作事業者…制作のほか、情報を更新をふまえてメンテナンスも廉価に。またSEO対策などサイトのヒット率向上対策も必要。 高校／大学の関係者等…学校での告知、学生への周知をすることができる仕組み作り。その方法論などを具体的に構築、実行できる人材。 中小企業団体等の関係者…広く中小企業者に知らせて、掲載登録してもらおう。中小企業団体等への告知活動。中小企業団体や業界団体等にパイプを持っている人のサポート。 マスコミ関係者…マスコミへのパブリシティは欠かせない。関係者の参画がベター。 		

アイデア⑦	発酵食堂カモシカの健康経営コンサルティング事業 ～ビジネスの最前線に発酵食を注入する♪～
発案者	発酵食堂カモシカ 関 恵
アイデアの概要	
健康経営に問題意識や課題感のある企業を対象に、半年～1年間、「働く人の台所に発酵食を取り戻す」をコンセプトに、4つの具体的サービスを実施（A 社員アセスメント「健康意識調査」、B.企業での発酵食ワークショップ、C 発酵食堂カモシカの発酵食品割引販売、D 発酵食堂カモシカの SNS で取組を発信。）	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事もハイパフォーマンスは「健康」に支えられている。 ・これからの労働人口減少時代にはいかに健康に長く働いてもらうか、ということが企業にとっては不可欠になる。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
実際に健康経営に取り組みたいと思っておられる企業のトップの方との連携。	

アイデア⑧	「京都農業 創生」
発案者	株式会社中嶋農園 代表取締役 中嶋 直己
アイデアの概要	
安定した経済活動、安心できる日常生活を送ることができる京都創りに貢献するため、食の源である農業を起点とした経済活動をもう一度見直し安心・安全で「安定」した食の提供をできる環境を作る。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・国（都市）にとって一番大切な農業が産業として成り立つのが難しい時代にある。 ・向島地域でも例外なく人口減少、少子高齢化が進み米・野菜の消費が減っている。 ・新しい価値を創造する仕事が減り、今ある富を切り崩す仕事が増えてきた。 ・人口減少・少子高齢化の中もう一度本当に大切な「価値」は何なのかを発信したい。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・農業を中心として、起業や創業をする人たちや大学生とのマッチングを希望する中小企業と一緒に入居できる施設の運営を考えており、そこに入居をしてくれる既存の中小企業に協力して欲しい。 ・必要な連携先は、若者の採用を強く希望される中小企業。 ・施設の運営に係る行政の支援。 	

アイデア ⑨	地域の中小企業が育つ「産学公民金」の連携ネットワークをつくる (地域企業が新しい取組を支える環境をつくる)
発案者	Medico-tec株式会社 代表取締役 宿野 秀晴
アイデアの概要	
中小企業と地域の「行政機関、教育機関、金融機関、経済団体、NPO、報道等」が連携しネットワークをつくる。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業が成長発展することで地域経済は活性化し継続的な繁栄をもたらす。その発展を通じて、中小企業は「地域と共に歩む地域社会の主役である」ことを地域社会に認知させたいと考えている。 ・地域の中小企業が育つ基盤（土壌）づくりには、中小企業のビジネス環境を支援することが必要だが、環境整備を中小企業だけで行うことはできない。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
「行政、金融機関、教育機関、報道機関」の各機関の方、各1名で連携を協議したい。	

アイデア ⑩	「新しいKOTO出会えるサロン」 in 京町家	※10月10日追加
発案者	京都信用保証協会業務部経営支援室専任次長 糠谷幸裕 / 課長代理 重松哲也	
アイデアの概要		
70歳以上のシニアを対象とした出張スマホ教室の実施、企画、講師派遣。		
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識		
<ul style="list-style-type: none"> ・人生百年時代へ。百年時代では50歳や60歳はまだ人生の折り返し地点となる。 ・60歳～64歳のスマホ普及率は50%、65～69歳では30%、70～74歳は20%である（年々普及率は上がっている）。しかしスマホを使いこなす一つの指標であるLINE普及率は70代で10%に過ぎない。 ・本当にニーズが掴めているのだろうか。高齢者はそれらしくあるべき、とお仕着せ的商品（例えばシニア向け携帯）も多い。本当の声を聴いて、来るべき人生百年時代の社会に生かせる情報を発信していきたい。 ・ゴールは独居老人を死語にさせること。自立した市民とし、コミュニティーを形成し経済活動に復帰できる仕組みを作ること。 		
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと		
<ul style="list-style-type: none"> ・市場開拓のため、各自治会、社会福祉協議会、老人会、県人会、各会社OB会の紹介。市のシニアの関係部署との連携。 ・（京都市立の堀川、西京高校などの）スマホやタブレットを学習に取り入れている市内の高校からの学生ボランティアを依頼するための窓口。 ・各携帯電話キャリア会社の企画部署等…ビジネスプランを提案、タイアップ。チャンネルの共有と活動資金のスポンサー要請。 ・未来会議参加者の方々には、講師ボランティアをお願いしたい。 		

アイデア⑪	京北お試し移住・多拠点化促進事業	※10月13日追加
発案者	株式会社 MicroNations 宮内 孝輔	
アイデアの概要		
京北の空き家をDIY改装し、シェアハウス化し、多拠点居住者の拠点にしながら、ひとの流れを巻き起こしコミュニティ化する。地域資源を活用した産業を創出し、地域と世界を繋げる。		
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識		
<ul style="list-style-type: none"> ・都会に住みながら田舎暮らしに憧れる層は確かに存在し、その後押しをしたい。 ・ミレニアル世代を中心に所有から共有への意識が高まり、シェアリングエコノミーが伸びているが、高齢者の多い地域社会では価値観の転換は起こりにくく、空き家はあっても市場に出てこない現状がある。 		
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと		
<ul style="list-style-type: none"> ・京北地域における空き家の提供者（リノベーションに必要な地域木材提供者） ・レンタカー事業者、中古車の提供者（お試し移住、他拠点での生活者が移動できるよう） 		

アイデア⑫	「セルフリノベーション・インストラクター」育成プロジェクト
発案者	京都移住計画 代表 田村 篤史
アイデアの概要	
（自分自身で自宅の床材の張り替えるなどの改修を行う）セルフリノベーションをサポートできる「素人以上・職人未満」のインストラクターを育成	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに、京都ならではの歴史や物語を持った古い住まいを自ら改修したいと考える移住希望者や、京都に移り住んでお店を出したいという移住希望者に多くお会いした。 ・移住促進の課題の1つは、移住先での仕事。例えば、新たなお店に挑戦したいなどの人にとっては、イニシャルコストを抑えて開店できる仕組みづくりの必要性が年々高くなっている。一方で、「方法が分からない」「材料が分からない」「工具がない」などの理由により、セルフリノベーションを断念するケースも少ない。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・DIYの実践できる物件を安定的に供給してもらえるような提携先（不動産会社やリフォーム会社、あるいは大家さん）。 ・京都市の空き家対策の事業との連携（空き家対策と移住施策の掛け合わせ、場合によっては創業支援などにつなげることが可能）。 	

アイデア ⑬	おうちごはんが手軽にできる、ママ達がつくるオーガニック調味料『PAPATTO シリーズ』の開発
発案者	カラースジャパン株式会社 西村 和代
アイデアの概要	
<p>手軽に使える料理素材としての調味料開発。</p> <p>食材を切って火を通し混ぜるだけで、本格的なおうちごはんが食卓に並ぶことを可能にする。</p> <p>若い母親世代と子育てを終えた先輩母親世代の生活の知恵を集め、共同開発することで、商品化に伴う調理補助の仕事づくりへとつなげ、母親達の活躍の場としても展開する。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> 簡単にできる料理材料として多くの商品が流通しているが、化学調味料に頼るものが多く見られ、決して身体に良い商品とは言えない。 時間のない現代人が健康や環境に配慮しつつ、美味しい食卓を囲むためにはどうしたらよいかを考えた。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
充填する容器やパッケージ化に関して協力して欲しい。	

アイデア ⑭	空き家を活用したニューツーリズム～モノ作りを通じて地域と来街者をつなぐ
発案者	株式会社コミュニティ・ラボ 田中 和彦
アイデアの概要	
<p>利用されていない空き家を使用し、地域住民が利用できる拠点を立ち上げる。</p> <p>ギャラリー・工房という場所を通じて、地域（住民・伝統産業）と来街者をつなぐ。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> 観光客の中で、「日常の京都」を楽しみたいというニーズは増加している。 東山区を筆頭に少し離れたエリアの空き家率は高く活用はあまり進んでいない。「日常の京都」が残されているエリアも多く、同エリアの空き家を活用することは空き家オーナーだけでなく地域住民にもプラスとなる。 京都には伝統産業が多く、日本中世界中から注目されているが、一部の大企業や認知度の高い企業である。地域のモノ作り事業の側方支援をすることで、変化や活性化のきっかけとなる。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
伝統工芸等のギャラリーで展示を行いたい個人もしくは小規模事業者。	

アイデア⑬	着付けのシェアリングサービス アプリの開発
発案者	池内友禅 池内 真広
アイデアの概要	
<p>スマホで着付け師の手配から現地での着付け、代金の決済までを行うサービス。 全世界どこでも気軽&お得に、着物姿を楽しみたいユーザーと、空き時間に着付けの技術を使って副収入を得たい着付け師の方をマッチングする、「着付けのシェアリングエコノミー」に属する。平たく言えば、UBERの着付け版です。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・着物を持っているが、着方を知らない人が数多くいる。着付けを学ばないと着られないというのは大きな障害になっている。 ・地元や知り合いの多い土地では、着せてくれる人を探せるが、知らない土地ではどこに頼めばよいのか分からない。 ・「着付けをどこに頼めばよいのか分からない」と言われることがよくある。また、地元美容室で着付けてもらったが下手で残念だったということも。着付けてくれる人を選べない現状には問題がある。 ・海外の旅行者が日本で着物を着ているが、ほとんどレンタル。着物を着てくれる人は増えているが、着物を買う人にはなっていない。自分で着られないので、買うという発想にならない。 ・海外で着物を着ようと思うと、着付けをしてもらえることは期待できない。日本文化を紹介できる大チャンスなのに勿体無い。 ・誤ったルールで着ては恥をかくという意識もあり、気軽に着用されない。着付け教室に通うのはハードルが高い。また、着付けをしてくれる方の年齢が高いことが多く、自分たちの感性と合わないこともある。 	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
実際にスマホアプリの開発などを手がけている人の意見が聞いてみたい。	

アイデア⑭	伝統産業のナレッジデータベース構築と高額伝統産業品の販路開拓
発案者	株式会社コムースタイル 田中健一（手作市場プロジェクトリーダー）
アイデアの概要	
<p>京都の伝統産業の技術を次世代に受けついでいく為に、制作過程を高画質（8K など）で撮影をし、アーカイブする。この動画を活用し、京都の伝統工芸の作品、その中でも高額品作品を海外に向けて販売する。また、ただ単に販売するだけでなく、伝統工芸に興味がある外国人を後継者として受け入れる体制作りも行う。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<p>京都の伝統産業を未来につないでいくには、技術を守り、作品を売っていかねばならない。現状では、生活に密着した作品作りが重視されている傾向があり、それだけで本当に技術が継承されていくのか疑問に感じていた。インターネットを通じて制作過程等を公開する事に多くの方に興味を持ってもらい、経済的に潤う事が出来れば後継者問題の解決にもつながるのではと考えた。</p>	
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと	
伝統工芸の方々の協力	

アイデア ⑱	発想の転換！点を線ではなく点を集めてサークルに 日本の灯り京の灯りで人集め	追加提出アイデア
発案者	有限会社中村ローソク 和蠟燭職人 田川広一	
アイデアの概要		
<p>商店街やホテルのラウンジ、小さなホールなどで、和蠟燭の灯りの元、お茶会や日本画を見ることや、お酒を飲んで頂くイベントを実施。日本の灯り（京の灯り）をテーマに、日本の灯りを楽しみながら伝統工芸品や京料理、京菓子などを「語り部」の方に、飾り方、見た目、使用方法、料理方法など、商品+αの付加価値をつけて語らせたうえで、商品を購入いただけるようにする。</p>		
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識		
<p>物を展示しているだけでは、販売が進まない。職人が出て販売すれば売れますが、職人は物造りをしなくてはなりません。食べ物、飲み物、工芸品、物産品などコラボして、小さなイベントを多くすることで腰を据えて買物が出来る環境をこちらで用意することをした方が良いのではないかと。京都＝観光だけではなく京都＝企画が面白く良いものが買える（飲み食いできる）。そんなイメージを植え付けるためにも日本の灯り、和蠟燭の灯りがご利用いただければと思いました。</p>		
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと		
商店街やホテルなどでナイトイベントをされる方（場所と機会の提供）		

アイデア ⑳	「食」に着目した森林資源の新たな活用・研究	追加提出アイデア
発案者	樹々の会 一瀬 裕子	
アイデアの概要		
<p>マイタケ（きのこ）栽培を始め、地域に多く自生しているクロモジ（クスノキ科の落葉低木）の機能性成分に着目し、健康茶、飴、入浴剤、パウダーなどの商品化に取り組んできた。今後、この商品の特産品化を目指し、安定的な生産体制を確立し、更に効能や成分研究する中で、販路拡大を図っていききたい（健康な「食」を前向きに適用できる企業とコラボしていききたい）。</p>		
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識		
<ul style="list-style-type: none"> ・基幹産業である一次産業（林業）の衰退と危機感に挑戦。 ・女性の立場や目線で森林・林業に関わることが出来ないか。 ・広葉樹資源の活用と研究。 ・森林の適正管理、継続した森づくり。 		
いま最も必要な連携先や協力してほしいこと		
<ul style="list-style-type: none"> ・健康関連のバイヤーとの相談。 ・効能や成分の配分等の調査。 		